平成２７年６月　第１０７号

居合道だより

1

はじめに

はじめに

先月２日～３日、第１１１回全日本剣道演武大会において居合道演武と居合道八段審査会が京都武徳殿と武道センターで行われた。

毎年、今年こそ武道の殿堂で満足のいく演武をと少しは稽古をしていくのだが、未だかって上手くいったためしがない。

理由は我ながらよく承知している。普段の稽古が足りないくせに、本番の時だけは上手く抜こうと思う己の浅はかな欲に他ならない。

昨年から演武名簿に範士九段の先生の名前が消えたのは本当に寂しい限りだ。

数年前のことだがK範士九段の先生が演武前の稽古場となっている武道センターにお見えになり、筆者の目の前で素振りを始められた。

チラッとこちらを見られて『いやあ、I先生が見ていると恥ずかしいなあ、緊張するなあ』と独特の語り口で仰ったが、米寿を迎えられたはずのその時のお顔が、まるで少年のはにかみのように純粋で清々しい笑顔だったのが今でも忘れられない。

今年の八段審査会も独特の緊張感の中審査が始まったが、受審者の半数近くが筆者よりも居合道歴が長いか、もしくは年長の先生だった。

八段審査は本当に狭き門だが、何度も挑戦し続けているその先生方の演武を拝見して、皆さんほとんどの方が昨年より明らかに上達していると感じられた。

あちこち故障を抱えながらも、老骨(失礼)に鞭打って精進してこられたお姿が目に浮かぶ。

このことがどんなに素晴らしいことか、そして難しいことかと心から感銘を受けた。

挑戦している先に『道』があるのではなくて、挑戦し続けるそのものこそが『道』なのだとあらためて認識し、『道』を実践し続けている剣友に心から尊敬の念を捧げたい。

稽古不足をごまかすために、範士は『半死半生』なんぞと言っている自虐ギャグは汗顔の至り！深く反省↘。

会員の声

他人を見る目、自分を見る目

錬心舘　あすなろ剣士

　世の中は他人の批判で姦しい。上は国会の議場から下は女房殿の井戸端会議まで限りがない。朝からテレビ・新聞などのニュース欄では、専門外と思しきコメンテーターが事の真偽はともかく、己の正義感を振りかざして、舌鋒鋭く他人のことを責め立てる。人間の性なのか、世にいう「他人の不幸は蜜の味」とやらで、週刊誌は日々刺激的な活字を躍らせ、人は見たがり知りたがる。

　人物・人柄を観察することは、集団生活を営む社会ではなによりも根源的なことである。古くは紀元前の中国において、代表的兵法書である六韜（虎の巻で有名）の、竜韜の巻にも人物観察法が記されている。金を管理させたり、酒を飲ませたり、女を近づけてみたり等など現在の社会でも通用する事柄が書かれており大変に興味深い。

　人の内面を観察する手法は別にして、自分が身を置く集団の中で、自分と他人の力量を比較するときの心構えを説いたものがある。それは書誌学者、文芸評論家である谷沢永一先生のエッセイに書かれており、その一部を引用させて頂く。自分を過信し過大評価してしまいがちなのを戒めた名言である。

【人間は自尊心を免れ得ず自惚れから脱しきれないので、他人の評価にあたっては必ず測定を誤る。もしある友人を「己より賢れるもの」と認定した時、その「賢れる者」は現在の自分に較べて、とても追いつけぬほど絶望的に優れているのだ。そして自分とほぼ同じ程度であろうかと、気易く余裕をもって値踏みした人物こそ、実はその種の人こそ「己より賢れる者」なのだ。ついでに言及するなら相手を下目に見て、あの人物なら我よりも劣っていると、あっさりと軽蔑に近い評価を下している徒輩こそ、現実には自分と同等なのである。】

私はこの文章を読んだ20年前頃はさほど内容を吟味せず、「そのようであるなー」と軽くうけとめていた。しかしこれは人物認識の要諦でもある。ある程度の居合道高段者になってきてこの文章を読み直すと、頭をガツンと殴られたような衝撃を受けた。居合道の術技において「彼我を見る目」の本質論であると思った。斯道での試合や昇段審査は、通常の競技・試合などで相手に走り勝ったり、組投げて勝ったりして自分で確認できるものではなく、他人（審査員）が評価するものだからである。

前出文を自分の経験に置き換えてみると、己より賢れる者とは近くは範士の館長であろう。剣理・剣技に精通した達人であり、とてもその領域に近づけない。同程度・同じ位の力量と見た相手は、二段程上位の人である。自分より劣っているなと思う下位段者の人が、自分と同程度の力量であると察る。

このことは、自分が演武したビデオを観たり、一人稽古で鏡の前で演武してみることでも理解できる。自分のイメージと現実は違い、そのギャップも甚だしい。顔は傾き、姿勢は屈み、足は撞木などなど、冷や汗が出る。その日は忸怩たる思いに囚われ、今どきの若者言葉でいうブルーになる。

人物を評価する時、自分には甘く他人には厳しくなりがちなのが私のような凡人の常である。自分の心中に潜む自惚れ・自尊心を抑制して、他の先輩・諸氏が自分を見る目線と同じくするには、練気養心、稽古に精進するしか道はないと思う。その心持は当流の教えである「他人には上手名人剛強其上に智者也我は下手無力愚人と思うべし云々」と重なる。

（念の為付け加えますと、上記は筆者の個人的な見解であり、識見豊かな剣友の方々はご容赦を。）

主な出来事・６、７月の予定

主な出来事

５月２日(土)	第１１１回全日本剣道演武大会	京都市
３日(日)	居合道八段審査会	
５月１７日(日)	居合道部理事会、総会、実行委員会	粕屋ドーム

６月、７月の予定

６月６日(土)～７日(日)

県居合道講習会　　アクシオン福岡

派遣講師　居合道委員　　小倉　昇先生

６月１４日(日)	第４８回福岡県居合道大会	福岡武道館
	級審査会、称号予備審査会	
	実行委員会	
７月１０日(金)	居合道６，７段審査会	鳥取県米子市
１１日(土)～１２日(日)		
	居合道地区講習会	

公益社団法人　福岡県剣道連盟

福岡県剣道連盟　居合道部

第１０７号 平成２７年６月１日発行

発　行：福岡県剣道連盟居合道部

URL : http://riai.info/

発行人：井手友太

〒819-1132　糸島市有田36番地-1